

クラス	Q304	担当教員	早川 すみ江
テーマ	精神分析的視点から考える内的世界と対人関係の相互作用		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】『新訂増補 パーソナリティ障害の精神分析的アプローチ―病理の理解と分析的対応の実際』（共著）金剛出版 2019 他</p> <p>【論文】「逆転移概念の変遷―Freud,S から今日的理解に至るまで―」（日本福祉大学心理臨床研究センター紀要 19,2024）</p> <p>「週 1 回の精神分析的心理療法におけるコンテインメントのプロセス―情緒的理解と待つこと―」（精神分析研究 Vol.67No.3,2023）</p> <p>「ワーキング・スルー概念の再考」（日本福祉大学心理臨床研究センター紀要 16,2021）他</p> <p>【研究課題】「精神分析的心理療法過程の中で起きる転移・逆転移およびクライエント／セラピスト間の交流のあり方に関する研究」「ロールシャッハ・テストと心理療法過程の中における精神力動との関係に関する研究」</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：精神分析、内的世界、自己理解			
<p>【目的】 このゼミでは、精神分析学や臨床心理学の本を読み、ディスカッションすることや、グループワークを通して対人関係の相互作用について深く考え、人との関係の中で起きるさまざまな現象について検討していく力を培うとともに自己理解を深めることを目的としています。</p> <p>【内容と授業計画等】 精神分析学や臨床心理学に関する本を輪読し、ディスカッションすることで、人間の内的世界についての理解を深めます。 また並行して、さまざまなグループワークを体験してもらい、対人関係の相互作用の中で起きている現象について考えたり、自己理解を深めたりしていきます。 こうしたグループディスカッションやワークを通して、人間の心や対人関係の相互作用に関して自分が興味を持つテーマを見つけていきます。文献・資料の収集と整理、および発表、討論を通して、テーマに関する文献・資料の集め方、まとめ方、発表の仕方なども学んでいきます。そして、3年の後期には各自の卒業研究のテーマを具体化していきます。 4年次には、各自がそれぞれの研究テーマに沿って研究を進め、お互いの研究を発表し、討論し合いながら、お互いによりよいものに仕上げたいと思っています。 卒業後どんな仕事に就こうとも必然的に人間の相互作用がともないます。そこで起きることを表面的にとらえ、処理するのではなく、その現象の奥にある人のこころや無意識のコミュニケーションについて思いをはせ、考えること、そして自分自身のこころや感情に向き合うことのできる人になってほしいと思っています。そうした力が、ストレスに負けない柔軟な心を養うことにつながるものと思います。受身的にすぐに答えを求めめるのではなく、わからないことについて主体的に深く考え、考え続けることをいとわない姿勢を期待します。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>精神分析や人間の心、無意識に関心があり、そうしたことについて深く考えてみたいと思っている人を待っています。各個人の卒業論文のテーマは、必ずしも精神分析と関係していなくても構いません。自分自身が見つけた問題意識を追及していくお手伝いをします。またディスカッションは苦手という人も大丈夫です。半年もすれば結構自分の考えを気楽に話せるようになります。</p>			